

令和4年度森林環境教育指導者養成講座 講座だより

第3号（9月発行）



【伝わる技術の講義の様子】

8月20日(土)に三島商工会議所で、養成コースの第3回目を開催しました。講師はインタープリテーションについて研究をされている帝京科学大学の古瀬浩史氏です。「伝える」のではなく「伝わる」ことの違いや、インタープリテーションについて、グループでの実習を交えて楽しく学ぶ1日となりました。

最初に講師の自己紹介を通して、フリップを使ったり、紹介のストーリーを考えて伝えると、より伝わりやすくなることを学びました。次に受講者も4枚のフリップを使った自己紹介を考えて互いに発表し合いました。インタープリテーションにはテーマ(メッセージやストーリー)があることが特徴であり、ただ情報を伝えるだけよりも、より伝わりやすくなることを学びました。



【自己紹介実習の様子】



【解説の発表の様子】

午後は近くの公園へ出かけ、自分たちで作ったビンゴ表を元に自然観察の実習をしました。その後、講師から与えられた練習文の解説を工夫して伝える実習を行いました。考えた解説は受講者同士で発表をしあいました。カエルの卵塊の長さを紐を使って表現したり、クイズを入れて双方向のやり取りを組み込んだり、どのグループも学んだことを早速実践をしていました。

＜発行元＞

静岡県くらし・環境部環境局環境ふれあい課 自然ふれあい班
電話:054-221-2848 Eメール:fureai@pref.shizuoka.lg.jp